

こんな門川町にしてほしい

門川中学校 二年 時任 愛菜

私は今の門川町は魚がたくさん捕れ有名だったり、おいしい食べ物があるいろいろな町だと思っております。ですが、その反面、不便なところがあったり、他の地域に良さをアピールできていなかったり、暮らしぶらい町だと思えます。しかし、そこを改善してもっといい町にしていきたいと思っております。そうするためには門川町が抱えている問題を少しでも解決するべきだと考えました。

そこで私は、問題点をふまえて、こんな町にしてほしいという考えをまとめ、みることにしました。すると、主に四つの点が挙がりました。

一つ目の問題点は小児科がないことです。例えば、小児科がないせいで発達障害やこころの問題を持つ子どもを適切に治療・支援できなかつたり、健康問題への早期対応できる健診を若年成人にまで延長することができなかつたりする問題がでてきます。こういうことがあるので、育児に励む親たちは安心して子育てすることができません。ですから、私は親が何も不安もなく、安心して子育てができる環境にしていきたいと思っております。

二つ目の問題は働く場所が少ないことです。働く場所がないと生活が出来なくなるので、県外に出る人が多くなります。その結果、人口が少なくなり、過疎化が進んでしまいます。実際に老年人口の割合は26・5%、年少人口の割合は14・9%と少子高齢化が進んでいる

状況になっています。若い人たちが働ける場所を増やし、地元で生活できるようにしていくために、交通の便を良くしたり、商業施設を充実させたりしていきたいです。

三つ目の問題は門川町は、魚の町ですが、アピールが他の地域に伝わっていないことです。「新・門川の魚大図鑑」や「門川の魚かるた」を展示するなど、アピールはしているけれど、たくさんの方の印象に残るようなことはできていないと思います。ですから、他の地域の印象に強く残るように、インターネットを活かして魅力的な窓口をつくり、魚の町をアピールすると良いのではないかと考えました。さらに、水族館などを造り、もっと魚とふれあえるようにしていきたいです。

四つ目の問題点は建物の老朽化です。役場が新しくなり、暮らしていて気持ちのいい町ができてきました。しかし、いろんな所が新しくなる一方で、老朽化が進んでしまった家や建物が何件もあります。災害などの影響で倒壊しそうな建物が人に危害を及ぼした場合、そこに住んでいる人はもちろん、その周辺に住んでいる人にも危険なことに巻き込まれる可能性があります。それだけではありません。住人の暮らしにくさや門川町の印象も考えると、建物や施設を補強したり、リフォームしたりしなければいけないのではないのかなと思えました。ですから、過疎化が進み、老朽化した建物を修復し、暮らしやすい、きれいな所にしていきたいです。

私が主に取り上げた四つの問題のほかに、まだまだ門川町には問題があります。そこを少しずつ直していくって、いつかすばらしい町にしていきたいです。

ですが、問題を解決しただけではみんなが暮らしやすいと思える町にはなりません。そこで私は、門川町に何が足りないのかを考えてみることにしました。いろいろ考えていく中で思いついたのは、「新しいことを取り入れること」というものです。他の地域では、良い町になるように、と積極的に活動しているところがあります。そんな地域の活動を取り入れることで、もっと良い門川町をつくるのが出来るのではないかと考えました。そこで、私がこの地域の活動を取り入れたいと思ったものがいくつかあります。その中でも特にいいなと思った活動を行っている地域がひとつありました。

「健康寿命のまち」と呼ばれる地域です。この地域は、今までまちの強みを地域経済の活性化に結びつけられていませんでした。その課題を解決するために二つの施策を打ち立てました。

一つ目は、健康寿命のまちとしてのブランドを確立することです。

二つ目は、保健サービスとヘルスケア関連機器の輸出を行うことです。

このまちの特徴は、元々行っていた医療の取り組みを、地域経済活性化のための先進的取り組みとして再構築しているところです。私はこの地域で行っている活動のよいうに、門川町も元々行っている取り組みを活かして、門川町をもっといいまちにするために再構築したらよいのではないかと考えます。

私は、門川町は自然豊かで、おいしい食べ物もあって、良いまちだと思います。他の地域の方々に門川町の良い

ところを知ってもらい、若い人たちに移住してもらえようなまちにしていきたいです。そのために、門川町が抱えている問題を少しでも解決して、新しくなった、暮らしやすいまちをアピールすると良いのではないかと考えます。